

首都奈良の文化交流

—空海の修業時代を手がかりに—

講演者：上垣外憲一 大手前大学 総合文化学部 教授

【講師プロフィール】

長野県松本市出身。東京大学大学院比較文学比較文化博士課程修了。東洋大学助教授、国際日本文化研究センター助教授、同教授、帝塚山学院大学文学部教授、同副学長を経て、現職。1989年の著書『雨森芳洲』でサントリー学芸賞を受賞。1996年、『半井桃水の朝鮮観』で博士（学術）（東京大学）を取得。専門は、日本文化史・日韓交流史・比較文化・比較文学。

【講演内容】

空海(774-835)は日本仏教史上最大の天才であるが、ここでは彼の中国語の会話能力に焦点をあてて考えてみたい。空海は804年に遣唐留学生として長安に留学するが、当初の20年間の留学予定を2年で切り上げて帰国する。空海の2年間の極めて充実した長安での活動を考えると、自由に中国語を話すことが、留学した最初からできたとは考えられない。では、空海は中国語会話をどこで学んだのか。空海が仏教の学習を行ったと思われる唐招提寺の公用語は、多数の中国人僧侶と技術者が寺にいたことから、中国語であったと考えてよい。中国から最新の密教の情報を伝えられ、また中国語が飛び交っていた唐招提寺こそが、空海の驚異的な語学能力を培った「国際交流センター」だったと言える。

空海年譜（伝説も含まれています）

西暦	年号	年齢	空海年譜
773	宝亀4		7月空海の父佐伯直田(さえきのあたえだ)、母玉依(たまより)が不思議な夢をみる (天竺の聖僧が母の胎内に入る夢)
774	宝亀5	1	6月15日早朝 讃岐国多度郡屏風ヶ浦(香川県善通寺)で誕生、真魚(まお)と名付けられる。
780	宝亀11	7	五ヶ岳(捨身ヶ嶽)で衆正済度の誓願
			母の弟、阿刀大足のすすめで讃岐の国府にある地方官吏の子弟教育機関である国学に入学
788	延暦7	15	叔父阿刀大足について上京(長岡)、叔父の指導をうける
791	延暦10	18	長岡京の大学(国家の最高学府)の明経道科にはいり、当時最高の学問をうける
			佛教を修める為に大学をやめる
793	延暦12	20	春日山岩淵寺の勤操(ごうそう)大徳僧都に弟子いり教えをうける。名を無空と改める。 ある沙門?に、虚空蔵求聞持法を授かりこのころより山野を歩き、四国で修行。 勤操のはからいで和泉国 <u>槇尾山施福寺</u> で出家得度。名を教海、その後如空
795	延暦14	22	4月9日 <u>東大寺戒壇院</u> で具足戒を受け空海と改名 このころ <u>大安寺</u> に住む 暮 大仏殿に三七(さんしち)日間=21 日間の参籠にはいる
796	延暦15	23	参籠満願の夜、夢のお告げで大毘廬遮那經を知り、經を探して旅をし、 <u>久米寺</u> の東塔にて発見
797	延暦16	24	このころ最初の著作「三教指帰」(出家宣言)を書く。
804	延暦23	31	5月12日 遣唐船にのり大阪を出帆、7月6日肥前国田浦出発 入唐、11月3日長安の都にはいる
805	延暦24	32	青龍寺の高僧、恵果阿闍梨より真言密教の全てを伝授される
806	大同1	33	帰国、3月長安出立8月明州を発ち10月筑紫に着く。
807	大同2	34	約1年大宰府の観世音寺に滞在。その後、 <u>槇尾山施福寺</u> に移り住む。 (四国にこの年伝承多し、槇尾山に行く前に四国へ渡ったか?) 真言宗を立教開宗。 <u>久米寺</u> にて大日經を初めて説く。
809	大同4	36	京都へ入住を許され高尾山寺に移り住む(以後 14 年間)
810	弘仁1	37	高尾山寺において鎮護国家の修法を修す。 東大寺別当に任じられる。